

『渴きを癒されて…』 ヨハネの福音書 7章37～39節 2017.10.8(聖日礼拝説教より)

『…イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。』 ヨハネの福音書7章37節
「誰でも渴いているなら、わたしのもとへ」と神が呼ばれる。『心の中でうめいている(ローマ 8:22)』とも言われる私たちは、何に渴き、何にうめいているのだろうか？

❶自分の心(魂)の渴きに気づく…「仮庵の祭り」で民は、辛い荒野の旅を、神がずっと共にいてくださり守り導かれたことに感謝し、祭司と共に叫ぶ「あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む(イザヤ 12:3)」と！ イエスはその最中で叫ばれた『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい』。私たちは人生で一番大切なことを忘れるほどに忙しい！ 創り主に愛され自分と隣人の素晴らしい価値を知り、人生の全ての出来事に目的と意味があることを、神は呼びかける！ 人は、人生に何が必要なのかを知らず、常に頼れる「何か」を求めている！

❷渴きを癒すお方(キリスト)のもとへ…『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます(マタイ 11:28)』と言われた方が、あなたの渴きを癒すと呼びかけられる！ その溢れ出る水の源泉は、御霊(神様ご自身)であり、その源泉への道が開かれるのは、「イエスが栄光を受ける時」だと言う(7:39)！ 「栄光を受ける」のはいつなのか？ それは、イエスが十字架につけられ、私たちの罪の身代わりとなって死なれた時を指す(ヨハネ 12:23～24)。『あなたがたに最も大切なこととして伝えたのは…キリストが…私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また…三日目によみがえられたこと(Ⅰコリント 15:3～4)』。これを信じる時、神の愛が心に流れ込まないようにせき止めていた「罪」というゴミ(仕切りの板)が取れ除かれ、一気に神の愛(祝福)が流れ込む！ 聖書が言う『いのち』とは『関係』のこと！ ルカ15章で、放蕩息子が帰宅した時、父親は言う『この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかった(15:24、32)』。身体は元気でも、創り主の愛を知らなければ、魂は死んでいる！ 聖書が信じる者に約束する『永遠の命』とは、「長生き」ではなく、何があっても決して捨てない本物の愛のこと！ この変わらない愛に支えられる人生は、順境でも逆境でも、変わらず平安！ 昨年召されたK 姉は、体はガンに侵され、病に蝕まれたが、イエスを信じ、神の愛と結ばれ、心(魂)は平安と慰めに包まれ、還るべき所に戻られた！

★あなたは、創り主と結ばれて、愛し愛される関係(いのち)に生きておられるだろうか？